

前立腺肥大症治療に、 チューブ 内視鏡下核出術(TUEB)を。

当院が実施する内視鏡下核出術(TUEB)は、従来の治療法に「くりぬく」という方法を加えた前立腺肥大症の治療法であり、安全性と確実性を向上させました。



安 全

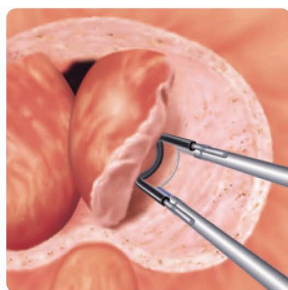
身体にやさしい生理食塩水中で、組織を「くりぬく」ことで、出血を少なくし、従来の治療に見られた低血圧合併症が起きにくくなったといわれています。



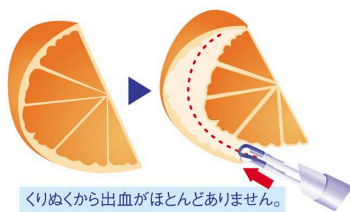
確 実

従来治療が困難であった極めて大きく肥大した前立腺に対し、根元から「くりぬく」という方法を導入することにより、確実な治療効果をねらい、再発の低減にも貢献します。

チューブ TUEBとは？

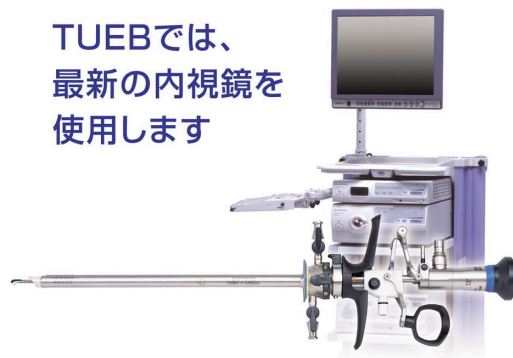


今までの治療法は、肥大した前立腺を「削る」という方法が主流でした。前立腺をミカンに例えると、外側の皮の近くまで内側の実を少しずつ削り取っていたため、その間果汁が漏出するように出血が続いていました。それに対し、当院が実施しているTUEBは、前立腺を「くりぬく」と同時に止血も行う治療法です。つまり、ミカンの外側の皮を残して、内側の房をはがすように切除するため出血がほとんどありません。そのため、周辺組織への影響も少ないので、患者様の体への負担が少なくなります。



くりぬくから出血がほとんどありません。

TUEBでは、
最新の内視鏡を
使用します



この手術は、日本で生まれ、世界でも多く実施されています。
また、保険適用もされています。

詳しくは、担当医までご相談ください。